

## A. タタリノフ『レクシコン』注釈4 (K~J)

江 口 泰 生

(まえがき)

『レクシコン』成立の解明については次のような課題もある。見出しロシア語の収集、キリル文字日本語とひらがな日本語の成立、文例集部分の成立の三つの問題である。このうち、第一点の見出しロシア語の収集については、ペトロワ1963 (ПЕТРОВА “<ЛЕКСИКОН> РУССКО-ЯПОНСКИЙ Андрея Татаринова” ИЗДАТЕЛЬСТВО ВОСТОЧНОЙ ЛИТЕРАТУРЫ, МОСКВА) では「恐らく編纂者はイルクーツクの日本語学校で養成されていた翻訳者に必要な用語集を編纂しようとした」、「家庭で用いる語彙や海洋用語を反映している」と述べた。しかし、一方で村山七郎『漂流民の言語』(吉川弘文館、1965) では「ゴンザ、ボグダーノフの『新スラヴ・日本語辞典』をも参照したことは、ロシア語の排列から明らかに看取される」と述べている。ペトロワが身近な語彙を収集したとするのに対し、村山は先行文献に依拠したという考えである。この見解の相違について、本稿では見出しロシア語がどのように収集されたのかについて一案を述べ、三つの問題のうち、残った部分は別の機会に述べたい。

『レクシコン』はまず第一に見出しロシア語が書かれ、次にキリル文字日本語が書かれ、それらを見てひらがな日本語が追加されたと考えられる。また一度書き終わった後に、キリル文字日本語の訂正が行われていると考えられる。

そこで、まず『新スラヴ日本語辞典』と『レクシコン』をいくつかの部で比較してみた。たとえばAの部で『レクシコン』と『新スラヴ日本語辞典』との対応表は次ページのとおりである。『新スラヴ日本語辞典』と『レクシコン』を併記し、見出し語が対応するものは横並びになるように示した。Aの部において、『新スラヴ日本語辞典』と『レクシコン』で共通するのは5例。最初の項目が一致するのは偶然とは思えず、『レクシコン』執筆にあたって『新スラヴ日本語辞典』が発想の基盤にあったことは村山の指摘どおりであろう。しかし村山が主張するように『新スラヴ日本語辞典』を下敷きにして『レクシコン』が作成されたとなると、共通語彙があまりに少ないのである。本当に直接的な引用関係があったのか、疑問なのである。

そもそも『新スラヴ日本語辞典』はロシア語アルファベット順(アズブカ順)なのに対し、『レクシコン』の配列はアルファベット順ではない。特にA部後半に『レクシコン』独自の語彙がまぎれていること、それらはアルファベット順ではないこと、コサック関連の語彙・魚の名前などシベリア関係の語彙や海洋関係の語彙が目立つことなど、『新スラヴ日本語辞典』との編集方針の明らかな相違が見て取れるのである。このあたりはペトロワ1962の『レクシコン』には家庭で用いる

『新スラヴ日本語辞典』		『レクシコン』		『レクシコン』のみ掲載	『新スラヴ日本語辞典』のみ掲載	
見出しロシア語	見出しロシア語の意味	Поросійски				
		(ロシア語)	(ロシア語の訳)			
Абѣсѣскоръ тотчасъ		Абѣе: съкоро: в то\т\часъ	(さよなら; まもなく; ただちに)			『レクシコン』のみ
		Аще ежей	(もし もし~ならば)	文法 (Аще)		
		Ащебы	(もし)	文法 (Аще)		
		ангелъ	(天使)	宗教		
Адъ	(地獄)	адамъ	(アダム)	宗教		『新スラヴ日本語辞典』のみ
Адскіи	(地獄の)	адъ	(地獄)	宗教		
		асъ	(えっ、何だって? 応答 返事)	文法		『レクシコン』のみ
Азбука	(アルファベット)	аз\бука	(アルファベット)			
Азъ или я	(私)					『新スラヴ日本語辞典』のみ
Анбръ или анбаръ	(倉)	ан\баръ	(倉)			
Анбонъ	(説教者の立つ高い所)				単位	『新スラヴ日本語辞典』のみ
Аршинъ	(ロシア尺)					
Атласъ	(繻子)					
Атласныи	(繻子の)					
Ахапка	(一抱え)					『レクシコン』のみ
Ачагъ	(囲炉裏)	ачагъ	(囲炉裏)			
		ар\бузы	(西瓜)			
		ахапка	(一抱え)	単位		
		атаманъ	(コサックの隊長)	軍関係 (ат)		『レクシコン』のみ
		атама\н\ная парта	(コサック集団)	軍関係 (ат)		
		аистъ	(魚名)	海事		
		а. ад\вйсъ пов еренест	(代理の手形)			
		а\т\весь	(墨壺 下げ鉛)			
		а				

語彙や海洋用語が多いという指摘どおりである。

次にΦの部で『新スラヴ日本語辞典』と『レクシコン』で共通する語も5例。学術的な語彙、単位関係の語彙は『レクシコン』にはなく、軍関係や海事関係の語彙が目立つ。この傾向はA部と傾向と一致している。『レクシコン』が日本語学校（もともと海軍学校）や生活に密着した語彙を収集したことの反映であろう。このように『新スラヴ日本語辞典』と比較すると、あまり共通点が見られないと言って良いと思う。

『新スラヴ日本語辞典』		『レクシコン』		『レクシコン』のみ掲載	『新スラヴ日本語辞典』のみ掲載	
見出しロシア語	見出しロシア語の意味	Поросійски				
		(ロシア語)	(ロシア語の訳)			
фа́млія	(苗字、姓)					→ стаканъ (チヨグ) の項目 『新スラヴ日本語辞典』のみ
фа́ла	(酒杯)					
фѣлософъ	(哲学者)				学術	
фѣлософія	(哲学、原理)				学術	
фѣлософствую	(哲理を究める、思索する)				学術	『レクシコン』のみ
фѣлософствуюкии	(哲学の、考え深い)				学術	
фонарь	(手提灯)	фельбанъ	(このロシア語、不明)			
		фонарь	(ランタン)			

флагъ	(船のマストの旗)	флюгоръ	(旗)	軍関係、海事		
флегма	(痰)	флейтусъ	(フルート)	軍関係、海事		『レクシコン』のみ
флегматикъ	(痰持ちの人)	флегматикъ	(痰症の人)			
фляга	(桶)	флегма	(鈍重な人 粘液)			
фляшка	(小桶)					『新スラヴ日本語辞典』のみ
фортеща	(堡塁)					
фортуна	(運命、幸運)	фартукъ	(エプロン)			『レクシコン』のみ
форма	(形、様態、形式)	форма : монера	(形 : やり方)			
фундаментъ	(土台、基礎)					
футъ	(フィート尺)				単位	『新スラヴ日本語辞典』のみ
фунтъ	(フント、旧ロシアの重量単位)	фйтиль	(燈心)		単位	
		фйлинъ	(おおみみずく フクロウ)			
		фан`за	(絹織物)			
		фатера	(将校家族用の宿舎)	軍関係		『レクシコン』のみ
		флагъ	(旗)	海事		
		фельтъмаршалъ				
		начальникъ	(軍の元帥)	軍関係		
		армя				

さらにЯの部で『新スラヴ日本語辞典』と『レクシコン』の共通語彙は皆無である。仮に『新スラヴ日本語辞典』の語彙を利用したのだと仮定すると、「Языкъ」には「言語」という意味もあるので、『レクシコン』では学術的な語彙と認めて削除したというような背景を考える必要がある。削除した理由は仮にそれだとして、ではそもそも『レクシコン』は上述のような語彙をどこから収集してきたのだろうか。

『新スラヴ日本語辞典』	
見出しロシア語	見出しロシア語の意味
Языкъ удъ	(舌)
Язычныи	(舌の)
Язычекъ в`горл:	(喉彦、口蓋垂)
Языкъ удъ	(錠の舌)

『レクシコン』		『レクシコン』のみ掲載	『新スラヴ日本語辞典』のみ掲載	
Поросийски				
(ロシア語)	(ロシア語の訳)			
яблоко	(林檎)	海事	学術	『新スラヴ日本語辞典』のみ
яблочное древо	(林檎の樹)		学術	
ярманга	(定期市)		学術	
якорь	(錨)		学術	
ягоды	(果实 いちご類)			『レクシコン』のみ
яйцо	(卵)			
ячмень	(大麦)			
я	(私)		文法形式	
яс`тре`б`	(大鷹)			
яблонь	(リンゴの木)			
яма	(穴)			
ямщикъ	(荷馬車の御者)			

ここで発想を切り替えて、もし『レクシコン』が『新スラヴ日本語辞典』に依拠せずに成立するとしたらどういふ場合なのだろうかと考えてみよう。次表は『レクシコン』6の部である。

б		
宗教語彙	богъ	(神)
	богъ отецъ	(父神)
	богъ сынъ	(神の子)
	богъ ду\х / святыи	(聖霊)
	божес\ тво	(神)
	божественное	(神の)
	блаженъ члвкъ	(祝福された人)
	блаженный	(祝福された)
	без\ грешныи	(罪のない)
	безпомощныи	(頼りない)
без -	безполезный	(役立たない)
	безпользы	(恩恵のない)
	безнадежный	(希望のない)
	безмолвие: мо\л / ча нiе	(噂のない; 沈黙)
	безводие	(水分のない)
	без\ до\ж / дiе	(雨のない)
	без\ временй	(永遠)
	безталан\ ныи	(不幸)
	бестужей	(恥知らず)
	бег\ лой	(流出)
б у	бестысты\ д / ной	(恥を知らない人)
	буеръ	(平底の輕帆船 水上帆走ソリ)
	бумага	(紙)
	буду	(ある いる 行く 来る)
	будучй: ежели	(あること; もし)
б а р	бо\л / ванъ	(型)
	барышь	(利益)
	барабанъ	(ドラム)
	барабанять	(強打)
	баранъ	(羊)
	башмаки	(靴)
	баня	(風呂)
	басъня	(寓話)
	бас\ нос\ ловие	(寓話を語る)
	барабан\ щикъ	(ドラマー)
бо	болтъ	(ボルト)
	бо\ ть	(船)
	болото	(湿原)
	борона	(まぐわ)
	бороню	(まぐわ)
	балатйрують	(投票して選ぶ)
	бьютъ	(叩く)
	богатею	(豊かな)
	бой баталия	(戦い)
	боюсь	(恐れる)
бо	бойт\ ся	(恐怖)
	био\т / ся	(恐怖する)
бр	брйтва	(カミソリ)
бр	брежся	(剃る)
	боронюся	(まぐわで均す)
бор	борода	(あごひげ)
	бородавка	(イボ)
бр	бранить	(叱る ののしる)
	браниль	(叱られた)
	бросаютъ	(投げる)
	бросиль	(投げた)
	братъ	(兄弟)
	большей братъ	(長男)
	бо\б / рь	(ビーバー)
	барсь	(豹)
	береза	(白樺)
	бйсеръ	(ビーズ球)
ба	баялайка	(バラライカ)
	баялайшикъ	(バラライカ弾き)
	баба	(女性)
	бабушка	(祖母)
	берегу: ст\ реру	(大切にする; 支える)
	быкъ	(雄牛)
	бегаю	(走り回る)
	баш\ ня	(塔)
	берегъ	(岸)
	бочка	(樽)
боч	бочкарь	(桶屋)

左欄に配置したように、最初に宗教語彙、次に否定の接頭辞 без-で始まるもの、次に бу-で始まるもの、次に ба-で始まるもの、というように冒頭の綴りが似ているものが固まって並べられる傾向があることに気付く。これは偶然ではないと思う。というのはこうした傾向は他の部でも同様だからである。

次の表は r の部であるが、冒頭に国に関する語彙（あるいは ro で始まる語彙）が掲げられ、次に ra、次に rp で始まる語彙が並べられている。一部、入り乱れている箇所もあるが、冒頭の綴りが似ているものが固まって並べられるという傾向が強い。冒頭の綴りが似ているものが固まってい

Г		
го	государство	(国家)
	государь	(国王)
	государь цесаревичь	(皇太子)
	государоний	(女王 女帝)
	государий цесаревгна	(皇女)
	государевъ дворець	(国王の宮殿)
	господинь	(主家の人々)
	гос'пожа	(奥様)
	го\д／	(年)
	горо\д／	(都市)
	гоню	(追い出す)
	гость	(お客)
	гость пришель	(お客が来る)
	говорю	(言う)
	говориль	(言った)
	гонецъ , почтарь	(飛脚 急使)
	готов'лю	(調理する)
	голу\б／ь	(鳩)
	голуб'ка	(雌鳩)
	гор'но	(精練炉)
	горо\х／	(エンドウ豆)
га	города державецъ; начальникъ	(都市の国家：長官)
	гало\д／	(飢餓)
гр	гавань; пристань	(港湾：埠頭)
	гра\м／матика	(文法)
га	грамот'ка; пйсмо	(手紙)
	галий\т／ су\д／но малое	(海の平底帆船)
	галька	(こくまがらす)
гр	гадю	(年)
	грива	(たてがみ)
	гривна	(グリーブナ＝古代ロシアの貨幣重量単位)
	грйбы	(きのこ)
	громъ	(稲妻)
	громъ гремятъ	(雷が鳴る)
	громова стрела	(箭石・矢石)
	гуляю	(散歩する)
гор	глаза ман	(眼球)
	горъло	(喉)
	горло болить	(喉が痛む)
	горло осыпло	(喉が枯れた)
	гребень	(櫛)

るが、アルファベット順になっていない点、『新スラヴ日本語辞典』との大きな相違点である。

全体的にみて、『レクシコン』は学術的な語彙、難しい語彙を掲載する方針を採用しておらず、口語的な語彙、海事や軍関係の語彙など、日常的に用いる語彙や学校に密着した語彙を収集した傾向が強いと思われる。『新スラヴ日本語辞典』にあまり依拠せず、タタリノフが日頃接していたロシア語を、語頭の綴りで連想しながら書き留めていったのではなかろうか。

全体的に『レクシコン』は学術的な色彩に欠け、拙い印象がある。それはタタリノフなりに日常語彙を集めたせいである。しかしこの拙さこそが、方言の反映度としてはゴンザ資料に比肩し、レ

ザノフ資料よりも東北方言の反映度の高い『レクシコン』を生んだのだと思う。

## 『レクシコン』注釈 (K~Л)

【K】					
368	017b	кйтъ рыба	(クジラ)	кужйра	くちら クジラ (鯨)
369	017b	к		キリル文字日本語なし	ひらがな日本語なし
370	017b	кйпарйсь	(檜)	фйноки	ひのき フィノキ (檜)
371	017b	кйтайка	(絹)	момень	もめん モメン (木綿)
372	017b	кйрпйчь	(煉瓦)	кавара	かわら カワラ (瓦)
373	017b	кйсть	(ブラシ)	фуде	ふて フデ (筆)
374	017b	кйтеръ	(ランチ 汽艇)	фо:шеб	ほ;せび <sup>°</sup> フォ シェビ <sup>°</sup> (帆 滑車)
		*ロシア語は「катеръ」(ランチ 汽艇) 参照。「帆」を上げるための滑車が「せみ」である。			
375	018a	катъ	(猫)	него	ねこ ネゴ (猫)
376	018a	котъ морской	(海の猫 = オットセイ)	табигоро	たひころ タビゴロ (海猫)
		<p>*アイヌ語で「あざらし」は「トゥカラ」「トゥカリ」と呼ぶらしい。母音は異なるが、「トゥカラ」「トゥカリ」(T+ (V~Q) +K+R) と「タビゴロ」(T+B+G+R) の子音配列が極めて類似していないだろうか。母音に挟まれたカ行は語中尾で有声化するの、「T+ (V~Q) +K+R」は「T+ (V~Q) +G+R」と同じである。「トゥカラ」「トゥカリ」≒「タビゴロ」だとすると、「タビゴロ」はもともとはアイヌ語起源ではなかろうか。</p> <p>このアイヌ語を元として、タビは「旅鳥」「旅乞食」などあちこち放浪するの意、ゴロはゴロツキなどの意味で、海岸にごろごろし、うろつく様子になぞらえられて命名された民間語源の語形ではなかろうか。オットセイについて、あざらしと同じと考えて、あざらしにあたるタビゴロを宛てたのではなかろうか。</p> <p>本資料にアイヌ語があることは、トドロブ (はい松) の例があるので自然。ただし母音の違いが大きいことから、アイヌ語そのものではないと思われるので民間語源の語形と考えた。</p> <p>また丹菊逸治『ニヴフ語サハリン方言語彙集』(北海道大学アイヌ・先住民研究センター、2013) によれば、ニヴフ語で「あごひげあざらし」「とど」のことを[taugr´] (gは口蓋垂の有声摩擦子音、r´は歯茎無声摩擦子音の有気音) というらしい。日本人が「タビゴロ」と聞き取ってもおかしくない語形である。アイヌ人とギリヤーク人とは交流があったらしいから、こうした語彙がアイヌ語に流入していた可能性もある。江口「A.タタリノフ『レクシコン』注釈2 (B~E)」、『岡大國文論稿』43、2015.3) 参照。</p>			
377	018a	кош'ка	(雌猫)	онаго него	をなこねこ オナゴ ネゴ (女猫)
378	018a	корова	(乳牛)	меушй	めうし メウシ (雌牛)
379	018a	конь	(雄馬)	умъма	うま ウム <sup>°</sup> マ (馬)
		*マ音の閉鎖が強く[mma]で実現していたと思われる。			
380	018a	кобыла	(雌馬)	да \ м / ма	たうま ダム <sup>°</sup> マ (駄馬)
		<p>*ペトロフ1962論文に「雌馬」が「ダウマ」と呼ばれる理由の説明がある。これは橋正一『方言讀本』(厚生閣 1937) に依拠したものと思われる。</p> <p>佐藤『南部のことば』では「だま」「だんま」とも…農耕用馬」とある。</p>			
381	018a	копыто	(ひづめ)	цуме	つめ ツメ (爪)
382	018a	коноваль	(馬医者 蹄鉄工)	багуро	はくろ バグロ (伯楽)
383	018a	костй	(骨)	фоне	ほね フォネ (骨)
384	018a	ког'тъй	(爪)	цуме	つめ ツメ (爪)
385	018a	кожа	(皮膚)	кава	かわ カワ (皮)
386	018a	корыто	(谷 樋)	кй \ т / цу	きつ キッツ (木櫃)

		*ペトロフ論文ではアイヌ語とする。「木櫃」(キヒツ)の方言形であり、アイヌ語ではないとする説もある。 本用例からみると、促音を含むと考えられるので、「木櫃」説を支持したい。 江口2013.12「ペトロフの『レキシコン』研究について(前)」(『岡山大学文学部紀要』60)も参照。				
387	018a	коробь	(箱)	фаго	はこ	ファゴ(箱)
388	018b	колоколь	(鐘 多くの金属管を吊るした打楽器)	цугйгане	つきかね	ツギガネ(突き鐘)
389	018b	колокольная	(鐘塔)	цугйганедо	つきかねと	ツギガネド(突き鐘堂)
390	018b	колодезь	(井戸)	я \ д / зи	やち	ヤヂ(谷地)
		*ペトロフ1962論文で橘正一「井戸の方言」(『方言讀本』厚生閣1937)を引用して、「井戸」になぜヤチがあてられたかの説明がある。 ロシア語「колодец」参照。56も参照。				
391	018b	ком'пасъ	(コンパス 羅針盤)	тогебарй	とけは'り	トゲバリ(時計針)
		*ペトロフ論文「海関係」語彙という指摘。				
392	018b	корабль	(大型外洋船)	окй фне	をき ひね(マ)	オキ フネ(大きい船)
393	018b	корабльная мачта	(船のマスト)	фнено фашра	ひねの(マ)はしら	フネノ ファシ'ラ(船の柱)
		*ペトロフ1962論文では「海関係」語彙という指摘がある。				
394	018b	корабельной руль	(船の舵)	фнено томо \ г а / й	ひねの(マ)ともカイ	フネノトモガイ(船の艫櫓)
		*船尾を艫(とも)という。				
395	018b	когда	(時)	і \ д / зу	イツ	イズ(何時)
396	018b	когда небу'ть	(これまで)	іздему : ка \ з / дему	イツてもかつて	イズ'デム カズ'デム(何時でもかつて)
		*ロシア語「когда нибу'дь」参照。				
397	018b	ково небу'ть	(誰でも)	даредему каре де \ му /	たれてもかれて	ダレデム カレデム(誰でも彼でも)
		*ロシア語「кого нибу'дь」参照。 村山1965脚注では「仮名では「たれても」とあって、ロシア字ではダレデムとあるのはロシア語кому(カムー)のムに影響されたものか。ただし、次の語を参照」(398のこと……江口注)とする。 しかし村山のように考えなくても良いのではなからうか。文字として書く時は「たれても」と書き、発音するときには「даредему」(ダレデム)という語末が狭まった発音をした、ということで良いのではなからうか。				
398	018b	кому	(誰に)	даредему	たれても	ダレデム(誰でも)
399	018b	ков'шйкь	(しゃくし)	фйягу	ひやく	フィヤグ(柄杓)
		*ペトロフ1962論文ではアイヌ語とするが、「ヒヤク」は「ヒシャク」(柄杓)かもしれない。というのは『レキシコン』では、フィサ音をフィヤ音とする傾向があるからである。13bでは「ひさしござります」を「フィヤシ ゴザリマス」としている。この例と並行的に考えてみると、ヒシャクがヒヤクになることもありえると思う。 村山「ア.タタリノフの「レキシコン」の東北方言について」(『国語学』52,1963)は『庄内浜萩』に「ひさく」、『地域社会の言語生活—鶴岡における実態調査—』(国立国語研究所1953)に「現在ではヒヤクが多い」とあることから、「二百年前にはヒサクヒヤク両形が行われ、一方は『浜萩』に、他方は「レキシコン」に記録をとどめた」とする。 『庄内浜萩』の「ひやく」形は文字としては「ひやく」と書いたが、発音としては「ヒシャク」に相当した可能性もある。				



400	018b	котель	(小湯沸し)	набе	なへ	ナベ (鍋)
401	018b	комаръ	(蚊)	ка	か	カ (蚊)
402	019a	комедія	(喜劇)	кабугй	かふき	カブギ (歌舞伎)
403	019a	комедийнско домъ	(喜劇小屋)	ишйбея	いしへや	イシベヤ (石部屋)
* ひらがな日本語はロシア語「камень」(石)と勘違いしたものか。						
404	019a	кон`трактъ; договоръ	(契約; 契約)	сабйру ю	さひる よ	サビル ヨ (喋る様)
405	019a	кореспонденция	(対応)	キリル文字日本語 なし	ひらがな日 本語なし	
* ロシア語「корреспонденция」参照。						
406	019a	кошелекъ	(がま口 金入れ)	кйн`чагу	きんちやく	キンチャグ (巾着)
* ロシア語は「кошелёк」(がま口)参照。						
407	019a	которой	(その)	доно	と`の	ドノ (何の)
408	019a	капйта\л/ богатство	(蓄え 富 財産)	канеможй	かねもち	カネモジ (金持ち)
409	019a	канатъ	(ロープ)	зна	つな	ズナ (綱)
* 語頭のツが濁音化している。						
410	019a	каре́та коляс`ка	(馬車)	курума	くるま	クルマ (車)
411	019a	кабинетъ	(キャビネット 小室)	キリル文字日本語 なし	ひらがな日 本語なし	
412	019a	картйна	(絵画)	эзу	ゑつ	エズ (絵図)
413	019a	канц`блярия	(事務所)	квайшо	くわいしや う	クワイショ (会 所)
* ペトロワ1962の音声特徴11では合拗音として指摘する。						
414	019a	канц`бляристь	(下級事務官)	квайшо кайдо моно вто	くわいしや う かいと もの ひと	クワイショ カ イドモノ フト (会所 下位ども の人)
415	019a	караульной	(衛兵)	банънйнь	はん`んにん	バンニン (番人)
416	019a	караультъ	(番をする)	банъ шймасъ	はんします	バン シマス` (番します)
417	019b	караульня	(衛兵所)	бандогуро	はんとくろ	バンドグロ (番 所)
* ペトロワ1962ではシベリア方言という指摘がある。ロシア語は「караулкная」参照。						
418	019b	карты	(カード)	када	かた`	カダ (カルタ)
419	019b	картаи іграють	(カードで遊ぶ)	када ужймасъ	かた うち ます	カダ ウジマス` (カルタ打ちま す)
420	019b	камйсаръ	(委員長官)	кмеіри вто	くめいり ひと	ク`メイリ フ` ト (組めいり人)
* ロシア語「комиссаръ」参照。ロシア語表記 o → a。 『日本国語大辞典』では「くみいり [組入] 仲間に入ること」とある。 『日本方言大辞典』の「組める」は「話などがまとまる。成立する。整う」で岩手や石巻、 仙台などが挙げられており、佐藤『南部のことは』でも「くみる[組る-組する-共謀する]」 とある。これらと関連するか。						
421	019b	кашель	(咳)	шабугй	しやふき	シャブギ (しわ ぶき)
* ロシア語「кашляеть」参照。						



422	019b	кашлеетъ	(咳をする)	шабугй шйма\с／	しやふき します	シヤブギ シマ ス° (しわぶきし ます)
		*ロシア語「кашлять」参照。				
423	019b	каплетъ	(落下する)	ожимасъ	をちます	オジマス° (落ち ます)
		*「капать」(滴る)参照。				
424	019b	каблукъ	(靴のかかと)	фа	は	ファ (菌)
		*下駄の「菌」か。				
425	019b	кавтанъ	(カフタン)	фаорй	はをり	ファオリ (羽織)
		*ロシア語「кафтаны」参照。				
426	019b	камзолъ	(キャミソール チョッキに似た 古風な胴着)	штагй	したき	シ°タギ (下着)
427	019b	карманъ	(ポケット)	фугуро	ふくろ	フグロ (袋)
428	019b	карте\ж／никъ	(賭博者)	када хогорй вто	かた ほこ り ひと	カダ ホゴリ フ°ト (カルタほ こり人)
		*ロシア語は「картежникъ」(賭博者)参照。 村山1965では「ほこる」を「放る」意にとって「カルタ投げる人」と訳している。確かにトランプなどでは札をさばいたり、投げたりすることもあるかもしれないが、意味的に少し遠いように思われる。 以下のように考えてはどうだろうか。『庄内浜萩』に「くるふヲほこる」とある。ここからすると、キリル文字日本語の意味は「カルタ、狂う人」の意味ではなからうか。 また、ホ音に「хо」が用いられている。431ではホ音、432ではハ音にxを用いているので、ハ行のうち、広母音のハ・ホは唇音退化して喉音化する場合があったのではなからうか。				
429	019b	каменщикъ	(石工)	ішйно кошрайр у вто	いしの こ しらいるひ と	イシノ コシ°ラ イル フ°ト (石 の拵える人)
430	019b	камень	(石)	ішй	イシ	イシ (石)
431	019b	капель местеръ	(楽長)	кѳго ѳи хо гори вто	きやうこ よい ほこ り ひと	キョゴ ヨイ ホゴリ フ°ト (矯語 (曲) 良い 誇り人)
		*ロシア語「капельмейстеръ」参照。ホにхоが用いられている。428参照。				
432	020a	+за значей	(出納係)	шехайнйнь	せはいにん	シェハイニン (支 配人)
		*語中ハ音にхаが用いられている。428参照。 кの部立にзで始まる語彙があるせいか、+記号がつけられている。間違いがある可能性はある。 村山1965では「出納係」というロシア語訳を宛てている。その根拠は示されていないが、кで始まる部であるから「казначей」(出納係)と訂正したのではなからうか。卓見である。				
433	020a	камвой обозъ	(荷馬車)	нймоцъ	にもつ	ニモツ° (荷物)
		*ロシア語「конвой обозъ」(荷馬車)参照。ロシア語o→a表記。				
434	020a	кадь	(手桶)	нйнай	にかい (マ)	ニナイ (担い)
		*村山1965「手桶」と訳す。その根拠は示されていないが、おそらく「кадка」(手桶)関連の語と考えたと思われる。				
435	020a	камышъ	(葦の類)	таге	たて (マ)	タゲ (竹)
		*村山1965脚注は「竹」とする。ひらがな日本語の「たて」は「蓼」か。				
436	020a	каль	(糞)	кѳв°со	くそ	ク°フ°ソ (糞 くっそ)
437	020a	калыбъ	(鉄砲などの口 径の意か)	тамаірй	たまいり	タマイリ (玉入 り)

		*Макс Фасмерの古語辞典《Этимологический словарь русского языка》(1987, 1986, Москва, прогресс社刊)によれば、「калыбъ」は「форма, образец」(形、見本)とある。村山1965は見出しロシア語を「鋳型」と訳す。 ロシア語「калыбъ」(鉄砲などの口径)に誤解したのではなからうか。				
438	020a	кедръ	(西洋スギ)	фашпаменоки	はしは <sup>ゝ</sup> めのき	ファシ <sup>ゝ</sup> パメノキ (榛の木)
439	020a	керъка	(目打ち)	мегирий	めきり	メギリ (目鉋)
		*ロシア語「кернер」参照。				
440	020a	краска всякая	(あらゆる色)	ироіроно	いろいろの	イロイロノ (色々の)
		*日本語の「いろいろの」は現在では「多様な」という意味だが、『レクシコン』では「色とりどり」という意味ではなからうか。『天正狂言本』でも「いろいろの小袖を脱いで」という箇所があり、「色とりどりの」という意と思われる。				
441	020a	краская	(赤い)	агаи	あかい	アガイ (赤い)
442	020a	кнйга	(本)	шомоць	しやうもつ	ショモツ <sup>ゝ</sup> (書物)
		*ひらがな日本語では「しょうもつ」、キリル文字日本語では「ショモツ」と書いてあり、「抄物」「書物」が混同しているように見えるが、そうではないと思う。タタリノフはひらがな表記ではア・オ段の拗音を基本的にはア段拗長音形でしか表記できなかったと思われる。詳細は江口泰生「タタリノフ著『レクシコン』の四つ仮名」(『国語と国文学』平成27年9月号)参照。示した語形は「書物」のほうであろう。				
443	020a	каналъ	(運河)	цызуми	つつみ	ツイズミ (堤)
【L】						
444	020b	людй	(人々)	втоно	ひとの	フ <sup>ゝ</sup> トノ (人の)
445	020b	лекаръ	(医師)	іша	イシ (マ)	イシャ (医者)
446	020b	лекаръство	(医薬)	кусурйний нару	くすりになる	クスリニ ナル (薬になる)
447	020b	лечить	(治療する)	рѣожи мимасъ	りやうをち (マ) します	リョオジ ミマス <sup>ゝ</sup> (療治診ます)
448	020b	ледъ	(氷)	шйга	しか	シガ (氷柱)
		*『野辺地方言集』に「シカ=氷柱」がある。『庄内浜萩』にも「氷ヲしが」とある。				
449	020b	лето	(夏)	на\д/зу	なつ	ナヅ (夏)
450	020b	летнее время	(夏の時)	назуно іздему	なつのいつても	ナズノ イズ <sup>ゝ</sup> デム (夏の何時でも)
451	020b	ледъвея (マ)	(腿)	момота	ももた	モモタ (腿)
		*村山1965は「腿」とし、『日本方言大辞典』ではこの例を引き「股」の方言とする。「ледъвея」というロシア語が不明であったが、探してみるとロシア語は「лядвея」(腿)に対応すると思われる。 佐藤『南部のことば』にも「ももた」の語がある。				
452	021a	ленйтый	(怠惰な)	караямй	からやみ	カラヤミ (骨惜しみ)
		*『日本方言大辞典』では「からやみ=からほねやみ[骸骨病]」で「骨惜しみをする者。怠け者」とある。また本例が用例として採用されている。				
453	021a	ленйтъся	(怠ける)	кара яймимасъ	からや\み / ます	カラヤミマス <sup>ゝ</sup> (骨惜しみする)
454	021a	ленокъ ізрыба	(魚の鱒)	масы	ます	マスイ (鱒)
455	021a	лежу	(横になる)	немасъ	ねます	ネマス <sup>ゝ</sup> (寝ます)
456	021a	летйтъ	(飛ぶ)	тобймасъ	とひます	トビマス <sup>ゝ</sup> (飛びます)
		*「летать」「лететь」(飛ぶ)参照。				
457	021a	лежить	(横たわっている)	немасъ	ねます	ネマス <sup>ゝ</sup> (寝ます)

458	021a	ломаеть	(砕く 折る)	орймасъ	をります	オリマス° (折り ます)
		* 「ломать」(砕く 折る) 参照。				
459	021a	лодка	(小舟)	р ѳшйбунй	りやうしふ に	リヨシブニ (漁 師舟)
		* 語末のエ段がイ段化している。サキ (酒) などと同じか。				
460	021a	лопата	(シャベル)	кайшйгй	かいしき	カイシギ (掻い 鋤)
		* 『日本方言大辞典』では本例を引用し、「かいすき (掻鋤) 雪かきの道具」としている。 佐藤『南部のことは』でも「かいすぎ[掻鋤-木製の雪掻き]」とある。				
461	021a	локоть	(肘)	фужичйри	ふちちり	フジチリ (肘尻)
		* ペトロフ1962の音声特徴の5でも「ひちちり」とするが、原本では「ふちちり」である。 『日本方言大辞典』でもこの例を引きながら《ひじちり》とする。				
462	021a	лобъ	(額)	номйсо	のみそ	ノミソ (脳みそ)
463	021a	лопотъ	(衣類)	кймоно	きもの	キモノ (着物)
		* ペトロフ1962ではシベリア方言とする。ロシア語は「лопотина」参照。				
464	021a	ложйтся	(横たわる)	немашймасъ	ねまします	ネマシマス° (寝 まします)
465	021a	ломъ	(スクラップ 屑)	кана жйги	かなちき	カナ ジギ (金 くず)
		* 佐藤政五郎編『第二版 増補新版 南部のことは』(1987 伊吉書店)に「じき 主と して下肥」、『野辺地方言集』に「ジギ (名) 人糞肥料」とある。岩手県『九戸郡誌』にも 「ヂギ 人糞尿」とある。「ジギ=糞」という意味で、かつて東北方言にも存在したのでは なからうか。 さて、中央語では「金属粉」のことを「金糞 (カナクソ)」と言った。したがって、ク ソ=ジギが成り立つとすると、「カナジギ」という語があったのではなからうか。				
466	021b	ладанъ	(香)	шенъко	せんこ	シェンコ (線香)
467	021b	ласточка	(燕)	цубагура	つはくら	ツバグラ (燕)
		* 中央語にもふるくツバクラの語形がある。				
468	021b	ладонь	(手のひら)	тено ура	ての うら	テノウラ (手の 裏)
469	021b	ладыш'ка	(くるぶし)	кобушй	こふし	コブシ (拳)
		* ロシア語は「ладыжка」(くるぶし) 参照。 『日本方言大辞典』によれば「くるぶし」を「こぶし」と言うのは東北方言にあり、本 例が用例として採用されている。				
470	021b	лапос'тъ	(足の裏)	а (ф) шйно (マ) ура	あしのうら	アシノウラ (足 裏)
		* ペトロフ1962で「足首」はシベリア方言とする。 村山1965では「[足の裏] afno uraと書き、fの上に細字でjを書いた。afno uraと書 き直そうとしたのであろう」とする。村山の意味は「Φのように書いてあるという意味で ある。シ→ヒの例と考えられる。類例は843。 ロシア語は「лапотъ」(わらじ) と関係する単語か。 Макс Фасмерの古語辞典《Этимологический словарь русского языка》によ れば「подошва」(靴底、足の裏、土台) である。				
471	021b	лакей:слуга	(従僕; 下僕)	керай	けらい	ケライ (家来)
472	021b	лакейка: служанка	(女性の下僕; 女中)	керай онаго	けらい を なこ	ケライ オナゴ (家来 女)
473	021b	лав'ка	(古いロシアの 住宅・農家の壁 に取り付けられ た腰掛)	энъ	ゑん	イエン (縁)
474	021b	лакъ	(表面の飾り 粉飾)	кешу	けしやう	ケシュ (化粧)
		* オ段拗長音のウ段化が生じている。				

475	021b	лукъ	(玉ねぎ)	фйру	ひる	フィル (蒜)
476	021b	лукъ стреле\ б / ный	(弓矢)	ю ми	よみ	ヨミ (弓)
477	021b	лубъ	(草木の内皮 鞞皮)	кйно кава	きのかわ	キノカワ (木皮)
478	021b	лукошко	(編み籠)	фаго	はこ	ファゴ (箱)
479	021b	лукавый	(狡猾な ずる い)	усо каги(ママ)	ゆそ かき	ウソ カギ (嘘 かき) (ママ)
		*キリル文字日本語は「ю с о」にも見える。佐藤『南部のことば』には「うそこぎ」がある。 これに類した語であろう。				
480	022a	лучъ солнечный	(良く晴れた)	тенькино ъи фи	てんきの よイ ひ	テンキノ ヨイ フィ (天気の良い 日)

(つづく)

付記：平成26年～平成28年度科研費、基盤研究（c）-（課題番号26370536）「十八世紀青森下北方言を反映するタタリノフ『レキシコン』についての文献方言史的研究」の支援を受けた。記して感謝申し上げる。

(えぐちやすお 岡山大学大学院社会文化科学研究科)